

入学者のことば

入学者のことば

歯学科1年 野村 加奈実



小暑を過ぎ、本格的な夏を迎える時期となりました。私達、歯学科一年生も新潟大学に入学して約三ヶ月が経ちました。私は水泳部に入部し、気の合う同学年、素敵な先輩方に囲まれ、

とても楽しい毎日を送らせて頂いております。

私事ながら、中学三年の修学旅行で、新潟中越地震の復興の最中だった長岡市、小千谷市を訪問し、仮設住宅の清掃、闘牛場や錦鯉の生簀の整備などのボランティアをさせて頂いた経験があります。道を塞ぐ土砂や鯉のいない壊れた生簀、猛暑を仮設住宅で過ごすご老人。今でも、あの被災地を訪れた記憶は鮮明に蘇ってきます。東日本大震災を故郷の岩手で経験した一年後、新潟大学に合格し、同じ被災地として新潟との強い縁を感じております。

東日本大震災からまもなく一年半。私の故郷も、復興への足取りを進めている所であります。震災発生当時、実家のある盛岡市にいた私は、ニュースで知らされる沿岸の惨状を目の当たりにしながら、何も出来ない自分の不甲斐なさに苛まれていました。数日後から津波で亡くなられた方々の口腔検案のため、県内の歯科医師が募られ、自宅で開業している父も被災地に向かいました。帰ってきた父は多くを語りませんでした。今までの姿とは明らかに異なるものを感じました。医療従事者として職務を全うするということは、日常診療のやりがいでなく、あのような現実に向面した際に非常な厳しさを伴うものなのだと感じた瞬間でもありました。

早期臨床実習Ⅰを終え、将来、歯科医師となり

社会に貢献するのだという自覚も、以前と比べて格段に強まってきました。学術的な知識は皆無ではありませんが、治療見学や患者付添実習等では多くのことを学ばせて頂きました。今後ご協力頂いている患者様や先生方への感謝の気持ちを忘れずに、勉学に励んでいく所存です。そして、これからの六年間、諸先生方の下で多くのことを学ばせて頂きながら、自分が歯科医師、そして人としてどうあるべきかを考え、目的意識を持った学生生活を送りたいです。

入学者のことば

歯学科1年 山本 悠

「夢はでっかく根はふかく」これは詩人、書家である「相田みつを」の言葉だ。私はこの言葉が大好きだ。

この言葉に出会ったのは、高校の文集を書くときだった。せつかく記念に何かを残すのなら、インパクトのあるものがいい。そこでインターネットでネタを探していたら「相田みつを」のまとめサイトにたどり着いた。そこには有名な作品が沢山あり、すべて素晴らしいものだったが、失礼ながら、ピンと来るものはなかった。「いいのいなかなあ」と探していたら、見つけた。やっと見つけた。それは「にんげんだもの」をもじった「いんげんだもの」だった。私は、この「いんげん」に魅了され、すぐに印刷ボタンを押した。印刷されて出てくる「いんげんだもの」にわくわくが止まらなかった。これなら、絶対にウケる、いや、ウケないはずがない、私はそう信じていた。ところが、時間が経つにつれて、この「いんげん」を客観的に見始めた自分がいた。もし、私が文集を開いたとき、ほかの人が「いんげん」を書いていたら。見た瞬間に鼻で笑うだろう。そしてなんと幼稚な高校生なのかと思うだろう。

そんなことを考えていたら、自分がとても恥ずかしくなった。

こんな経緯を経て、見つけたのが「夢はでっかく根はふかく」である。この言葉は深い。この言葉での「夢」とは、幼稚園生定番の夢であるウルトラマンになりたい、というものではない。ここでの「夢」とは「目標」であり、「根」とは「努力」ということである。

私たち新入生は「夢」を抱いて入学してきた。それは「歯科医師」になるということである。6年間を通して、知識、技術、そして人間性を身につけ、最後に歯科医師になるという「目標」を達成する。しかし、歯科医師になるということは、とうてい容易なものではない。人並みならない「努力」が必要である。私たちは、この大きな夢をかなえるために、根を深く張らなければならない。頭でっかちになってはいけいなのである。もしなってしまうたら、崩れてしまう。

最後に、この言葉には二つの解釈がある。一つ目は、「大きな夢を叶えるには、根を深く張らなければならない」、二つ目は「根を深く深く張れば、どんな夢でも叶えられる」である。私は、二つ目の意味のほうが好きである。なぜなら「努力は必ず報われる」からである。

入学者のことば

口腔生命福祉学科1年 江連 采弥子

新潟大学に入学してから早くも三ヶ月という月日が過ぎました。大学生活は思っていた以上に毎日が充実していて、時が過ぎるのがとても早く感



じます。そもそも私がこの大学に入学した理由は、高校一年生の時に歯科衛生士になりたいと思ったからでした。いろいろ調べた結果、この大学の存在を知り、その時絶対ここに入学すると心に決めました。そして今年の春、晴れて新潟大学歯学部口腔生命福祉学科の学生になることができました。

入学してすぐの頃は、新しい環境に戸惑うばかりで、先が見えず、不安でいっぱいでした。しかし赤塚で行われた歯学部新入生の合宿によって、新しい友達をたくさん作ることができ、徐々に毎日が楽しくなってきました。また、今年は五十嵐キャンパスでの教養科目の授業がメインとなるのですが、前期に週に一回、旭町キャンパスで行われる早期臨床実習があります。そこで実際に病院で患者様と関わったり、治療を見学したりしています。実習は、ほとんど立ちっぱなしで毎回みんなへトへトになっています。しかし思えば、あんな数時間で疲れては医療には携わる人間にはなれないので、大学生のうちしっかりと体力をつけておかなければならないと感じました。それから、病院で働く歯科衛生士さん達を見てとてもかっこよく思えました。私もあんな方たちようになれたらと、モチベーションが上がる実習となっています。

それから、私は硬式野球部のマネージャーをやっています。全学の部活なので、様々な学部の人たちと触れ合うことができ、とても楽しいです。そして選手のみならず目標に向かって日々練習に励んでいます。人をサポートするという点で歯科衛生士と共通な部分もあり、また楽な仕事ではないので忍耐力が鍛えられます。だからこの経験が将来の自分に生かせたら何よりだと思います。

これからの四年間は、将来の土台となる大切な期間です。講義や実習を通して、専門的な知識や技術をたくさん身につけていき、より必要とされる人材になれるよう努力していきます。そして、この大学生活で出会う友達や仲間と一生付き合えるような関係を築いていきたいです。

新潟大学歯学部に入學して

口腔生命福祉学科1年 佐藤 菜 絵



新潟大学歯学部に入學してから、早いもので4ヶ月が経とうとしています。本当に驚くような速さで過ぎてしまい、これからの4年間もこのようにあっという間に過ぎてしまうのだろうかと不安に思ってしまう。4ヶ月前は、人数の少ない学科で友達ができるのだろうかとか、勉強についていけるのだろうかとか、履修登録はどうすればいいのかなど不安なことや戸惑うことが多くありました。実際、大学生活が始まってみると慣れない一人暮らし、今まで経験したことのないような字数のレポート課題、早期臨床実習など初めてのことばかりで毎日ただただついていくことに必死でした。しかし、そのような生活にも徐々に慣れ、今では部活に入り大会に向けて練習に励んだり、コアな話ができる大切な友達ができたりと忙しくも充実した大学生活を送ることができていると感じています。

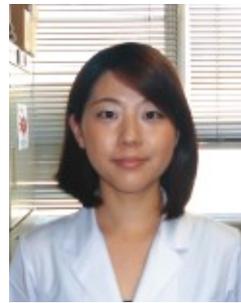
1年次は基本的に五十嵐キャンパスでの教養科目の学習ですが、週1回旭町キャンパスで早期臨床実習がありました。初めて実習着であるナースユニフォームに袖を通した時、「歯科衛生士になる」という夢に1歩近づいたような気がして嬉しく思ったことをよく覚えています。早期臨床実習は、まだ歯科についての知識のない私にとってひとつひとつがとても新鮮でした。この経験を来年から始まる専門科目の学習に生かしていきたいです。

これからの4年間、今しかできないことをたくさん経験していきたいです。将来役立ちそうな資格を取ったり、海外へ行き他国の言語や文化を学

んだり興味のあることにどんどん挑戦していきたい、それらのことから多くのことを学び、吸収して有意義な大学生活を送っていきたいです。また、横のつながり・縦のつながりを大切にし、大学ならではの幅広い人脈を築いていきたいと思いません。そして、4年後、自分の理想とする歯科衛生士像に少しでも近づけているように努力していきたいです。

大学院に進学して

歯周診断・再建学分野 小澤 麻由佳



4月に新潟大学大学院医歯学総合研究科の歯周診断・再建学分野に入學して、早くも4ヶ月が経とうとしています。研修医までの臨床中心の日々から一転して、今は研究が中心になっ

ていて、慣れない論文や実験操作、そして何より実験に使う細菌(*P.g*)の強烈な臭いに四苦八苦の毎日を送っています。

私は学生の時から研修後は大学院へ進学しようと考えていました。それはこれから何十年も歯科医師をやっていくにあたって、ここだけは誰にも負けないと自信を持てるようなもの、専門性を持ちたいと考えていたからです。勉強はやる気になればきっとどこでもできるのだと思いますが、一番集中してできる環境を考えたときに私が選んだのは大学院でした。また、留学に興味を持っていたこともあり、大学院で研究の基礎から学びいずれば留学へのチャンスをつかめたらいいなという思いもあり大学院への進学を決めました。

どの分野に進むかはとても悩み、最終的に歯周科にしようと思ったのは研修医の夏頃でした。悩んでいた時にちょうど話題になっていた、歯周病と動脈硬化の関係性を示唆する研究のニュースに刺激を受けたこと、そして研修医の時の指導医であった中島貴子先生に声をかけていただいたこともあって歯周科に行こうと思うようになりました。

さて、こうして大志を抱いて大学院に進学したわけですが、実際には思うように行かないことや、自分の実力のなさに落ち込むことがたくさんあります。そのような時も、落ち込んでいるだけでは何にもならないので、前を向いて、まずは目の前のこと一つ一つを真剣に取り組んで行きたいと思います。

研究者としても臨床医としても駆け出しの私ですが、今は一生懸命研究に取り組んで、いつかは学んで来たことを患者様に返せるようにがんばって行きたいと思います。

大学院に入学して

口腔生命福祉学専攻 皆川 渚
前期博士課程1年



私は今年の3月に口腔生命福祉学科を卒業し、4月から社会人大学院生として仕事と大学院の両立生活を送っています。大学では保健・医療・福祉の幅広い分野について学んできましたが、より専門的で高度な知識・技術を身につけたいと思い進学を希望しました。平日は新潟大学医歯学総合病院に歯科衛生士として勤務しています。その為、大学院の講義や課題は仕事後に行わなければなりません。仕事で疲れきった後に待っている講義、膨大なレポート、課題……新米社会人にとって両立はとてもつらいものがあります。今年の博士前期課程の同期は私を含め4人います。そのうちの1人も私と同じく社会人大学院生です。仕事や課題、つらいことも多い中でお互いに励まし合いながら、忙しさで目が回りそうな日々をなんとか乗り切って頑張っています。入学してから3ヶ月が経ちましたが、大学院では大学の時よりもさらに

自分から進んで学ぼうとしなければ学べずに、得るものも少なくなってしまうと実感しています。自分次第で2年間が大きく違うものになってしまう為、学ぶ姿勢を常に持ち続けて行きたいと思います。大学院生といっても、研究の方法など何も分からない状態で始まるため、口腔生命福祉学科の先生方には大学時に引き続き手取り足取り大変お世話になっています。今はつらく感じている大学院生活ですが、来年自分の研究が形になった時に（来年で形になればの話ですが）、よく頑張った！と嬉し泣きしている自分がいると信じて、まじめにこつこつ取り組んで行きたいと思いません。また、仕事の面では、先生方・看護師のみなさん・歯科衛生士の先輩方から、右も左も分からないような新人の私に、忙しい中で熱心な指導をして頂きとても感謝しております。まだまだ未熟者ですが教えて頂いたことをしっかりとこなせる様に、これからも努力していきますのでどうぞよろしくお願い致します。

大学院に入学して

口腔生命福祉学専攻 横塚 あゆ子
博士後期課程

平成24年4月に新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士課程に入学しました横塚あゆ子と申します。歯学部口腔生命福祉学科4年、修士課程3年を経て、引き続き新潟大学でお世話になっております。口腔生命福祉学科4年生の時に摂食嚥下リハビリテーションに興味を持ち、歯科衛生士として研究をしたいと思い、修士課程に進学しました。修士1年生の時は、口腔生命福祉学専攻に在籍しながら摂食嚥下リハビリテーション室で勉強させていただき、新潟大学は勉強するのに最適な環境でした。そんな恵まれた環境を自分から手放すことはすごく悩みましたが、「臨床も研究もたくさんやりたい！」という強い気持ちから、修士2年目からは東京の大学病院に就職し、社会人大学院生として日々を送っています。新潟大学で摂食・嚥下リハビリテーション学分野の先生方の臨床から研究まで身近で学ばせていただいたこと、口腔生命福祉学講座の先生方

が私の自由奔放な大学院生活を基本から御指導していただいていること、社会人大学院生に対する職場の理解など、これらが博士課程に進学する決め手だったと思います。大学病院で働き始めると患者様と身近に接する機会が多くなり、歯科衛生士は患者様とそのご家族を支援できる立場の一人だと実感します。大学院で学んでいることが日々の歯科衛生士業務に活かすことができ、職場で患者様と接することが院生生活のモチベーションの維持に繋がっていると思います。歯科衛生士とし

ての自分の技術のなさに落ちこみ、大学院生として勉強不足だと悩むこともあります。社会人大学院生を大変だと感じたことはありません。仕事と院生生活を両立することによって相乗効果を得ることができると思っています。日常の歯科衛生士業務と並行して研究を行い、より一層患者様に還元できるような歯科衛生士になることを博士課程の目標とし、一生懸命勉強していきたいと思えます。

